

平成 25 年度第 3 回東久留米市社会福祉審議会議事録

1 日 時

平成 26 年 1 月 22 日（水）午後 7 時 00 分～午後 9 時 20 分

2 場 所

市役所 7 階 701 会議室

3 出 席 者

〔審議会委員〕川村会長、磯部副会長、加藤委員、早川委員、石橋委員、當麻委員、福地委員、有賀委員、石浦委員、松永委員

〔事務局〕鹿島福祉保健部長、宮崎福祉総務課長、秋山障害福祉課長、田中介護福祉課長、原田健康課長

〔コンサルタント〕㈱インテグリティサーチ 1 名

4 次 第

（1）開 会

【事務局】本日は、お忙しいところ、ご出席いただきありがとうございます。ただいまより、平成 25 年度第 3 回東久留米市社会福祉審議会を開会いたします。私、会議冒頭の進行役を務めます、福祉総務課長の宮崎でございます。よろしくお願いいたします。

本日の会議の開催につきましては、東久留米市社会福祉審議会条例第 6 条の規定により、審議会委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができないとなっております。本日は、岩田委員から欠席連絡がありましたが、半数に達しておりますので会議は成立しております。会議の傍聴に関しては第 1 回審議会を確認いただいておりますように、傍聴希望がございましたら許可することといたします。ご了承のほどお願いいたします。

（傍聴者：なし）

会議に先立ちまして、本日の関係資料の確認をお願いします。事前に郵送でお送りしました資料は、本日の会議次第、第 2 回審議会議事録、現地視察ヒアリングシート、視察先への礼状、地域福祉に関するおたずね調査報告書、地域福祉計画第 3 次計画骨子案であり

ます。

本日机上配布しました資料は、庁内検討委員会第3回会議録であります。次に、地域福祉に関するおたずね調査報告書に関してページ3に「ブロック別の年代、性別のグラフ」を加えたものを用意しました。恐縮ですが、事前郵送分のページ3を差し替えていただきますようお願いします。もう一枚、地域福祉計画第3次計画骨子案の中の「地域における『新たな支え合い』と自治体の役割」の図が小さくて見えにくいと思われましたので、1ページものに拡大したものを用意いたしました。

以上、漏れはございませんでしょうか。

それではこれよりの進行は川村会長にお願いしたいと思います。会長、よろしくお願いいたします。

（２） 地域福祉計画第3次改定について

○ 現地視察（ヒアリング）結果について

【会 長】皆さま、こんばんは。それでは第3回の審議会を始めたいと思います。

きょうは会議次第にありますように、11月21日に実施しました現地視察・ヒアリングの結果をどう次期計画に取り込んでいくか、「地域福祉に関するおたずね」アンケート調査に関しては年度末にかけてまとめます調査報告書の流れの確認、そして第3次計画骨子案について検討をしていきたいと思います。

委員各位の十分かつ活発なご議論を期待しております。

まず、現地調査・ヒアリング結果から検討を始めます。3人の委員さんからヒアリングシートの提出をいただいています。ありがとうございます。そのご報告をいただく前に、視察当日やむなくご欠席の委員さんもおみえでしたので、視察の記録画像を皆さんにご覧いただきたいと思います。

事務局から報告をお願いします。

【事務局】画像を映写しながら、東久留米団地自治会、氷川台自治会、NPO法人武蔵野の里、自由学園、ひばりが丘団地、イオン、滝山団地の順で視察風景の紹介。

【会 長】ご欠席の委員さんにも視察の雰囲気や視察先4団体の手厚い対応ぶりを感じとっていただけたのではと思います。資料にありますように、視察先にはお礼状を差し上げております。

では、ヒアリングシートを提出いただいた3人の委員さんに視察の感想等、報告を頂戴

したいと思います。それを手掛かりに他の委員さんにも感想、意見等お願いしたいと思います。

まず、東久留米団地自治会では案内役もおつとめいただいた福地委員からお願いします。

【委員】東久留米団地では、一人住まいの高齢者が思った以上に多く、孤独死もずっと続いていて、それをなくすというのが一番の課題です。お年寄りのところに行くと、隣の家も覗けない、声もかけられない状況です。住宅としては耐震建築で安全で災害時でも逃げないということを決めています。住宅は問題ないが、医療関係は歯科と診療所だけなので足りない。介護については、大概3日くらいヘルパーさんを頼んで、その他はデイケアセンターに通っているなど、介護はとても進んでいます。隣に小規模多機能型居宅介護事業所（施設）も特養もできるということで、大変期待している。家の隣にそういう人達が居てくれるというのが心の支えになります。我々としては、病気にならない予防の勉強、体操教室や旅行会もやっています。団地が坂の上なので、足腰の悪い人たちをなんとかケアしたいというのが1番の考えです。

氷川台は、あまりにも東久留米団地と違って狭い。うちの団地には公園や森林、散歩コースがあり、自分がやる気になれば、そこで十分元気で生きていけるところがあるのですが、氷川台はそれが非常に難しい所だと感じました。氷川台の自治会は素晴らしくて、うちの自治会より対応が進んでいて、ここまでよくやれると感じました。うちの東久留米団地自治会は、住宅や環境に守られている。医療関係さえしっかり動けるようなところがあれば一番いい。薬屋さんも近くに無いが、それ以外は大丈夫。氷川台は、「これで歳をとって、自分の家でひとり暮らしができるのか」という感じがしました。

NPO法人武蔵野の里は、民生委員さんも関わっているのでよく話は聞くし、お店も出来て良い方向性ができているのではないかと思います。民生委員の意見としては「規模が大きくなりすぎた」とのことですが、私はまだまだ小さいのではないかと考えています。東久留米には精神障害の方が3000人位いるのだが、そういう人達の働き場をもうちょっと早急に進めるべきではないかと感じました。

自由学園は、わずかな人達を教育するには、とても素晴らしい環境。東久留米市役所でも、自由学園の卒業生が雇えるようにしたら良いのではないかと思います。私の親戚が自由学園にいて、良い関係を結んでもらっています。中に入って施設をじっくり見たのは初めてでしたが、素晴らしい。ただ、10万坪を買って頂いて、5万坪を住居として学園町を作った時に、こういう自分たちの5万坪の設計思想で整備してくれたらどんな

にか良かったかと思いました。学園町の道はあまりにも狭くて、我々の乗った車が通るのも大変でした。

【会 長】続いて、加藤委員、お願いします。

【委 員】グリーンヒルズ東久留米に関しては、特養と小規模多機能などが併設され、高台にもあるという地理的状況でもあり、コンパクトシティのモデルにもなるので、地域完結型の一つのモデルとして位置づけをしたら良いのではないのでしょうか。いろんな活動があり、自助・互助に関してはかなり進んでいると感じました。そういったものを上手に活用し、コンパクトシティとして完結させてはどうかと思います。市が広報を使ってグリーンヒルズ東久留米の活動などを積極的に市民に伝えるなど、金銭的以外な部分でバックアップをする事が非常に大きいのではないか。市の広報で各地域の活動を紹介することにより、地域の互助活動が活性化した事例は各市町であるので、どんどんと良い事をお伝えして行くことが大切ではないかと感じました。

氷川自治会で印象に残っているのは、女性の方が「楽しい活動をしたい」とおっしゃっていた。それがまさしく基本だなと思います。地域の方々が、楽しく自治会活動に参加できるような取り組みの成果が少しずつ出ていると感じました。要支援者の支援者リストと支援単価表があるということでしたので、それらをモデルとして、各地域の日常生活支援事業を展開していくと良いのではないかと思いました。移送については地域通貨などを使って展開したらどうでしょうか。

地域の方が一緒になって、千葉県のパプロジェクトなど、もう少し氷川自治会向けにアレンジしたような形で上手く介護予防などと結びつけて実践が可能ではないかと思いました。

武蔵野の里は、精神障害者の理解を深めるための啓発活動などの企画、そういったことを更に進める必要があるのかなと感じました。特に、文化芸術に関しては、文部科学省が来年度政策として文科省と厚労省が連携しながら、障害者の芸術の振興を図ることを打ち出しているので、それを上手く取り入れながら、先進事例として取り組んでいく必要があるのではないかと感じました。武蔵野の里へ気楽に通えるような小さな地域共生拠点の開設など、縦割り行政の難しい面はあるとは思いますが、各部局が連携し合いながら、共生の拠点を整備していく必要があるのではないか。厚生労働省から予算が出ているので、それを上手く活用し、部局の壁を乗り越えて、柔軟に対応ができるような方向を打ち出していれば、より一層障害者の方々が生活しやすい地域づくりにつながるのではないか

と考えています。

自由学園では先生方から地域と連携できるアイデアはないかという話がありました。ひとつの例として、全国で行われている子ども会議の自由学園地域福祉会議のような、中学・高校などそれぞれの学部ごとにフィールド調査、実践会議などを行いながら、各校ごとに、高齢者・障害者といった分野からの会議を行うなど、学園の専門家の知見を加えながら、地域性と専門性を統合できる取り組みにしてはどうかと思いました。

【会 長】続いて磯部委員、お願いします。

【委 員】東久留米団地は、高齢化ということで孤独死がすごく心配されているということを感じました。若い人の定着が少なく、転入してきても、すぐに引っ越してしまうという話でした。福島の被災した方々もそこに住んでいて、そこで落ち着きたいという話もあり、社会的な貢献もしているというところに関心を持ちました。

年金とか少しずつ下がる中で家賃は上がってきているので、いつまで住めるのかという心配がある。障害もそうですが、歳をとっても生きがいに繋がるような働きのある場所があると良いのではないかと感じました。厚生労働省や国に対して家賃を下げて欲しいという運動もしているようで、そういうところも生きがいに繋がるような、微々たるものかもしれないが収入につながるような方策を考えていく必要があると感じました。

氷川台も先進的に取り組んでいて、自閉症を持つ親子と一緒に参加して避難訓練をしていると伺いました。入所施設が自治会の中にあり、そこが地域の避難訓練に参加しているということで感心しました。今でも、西東京市では入所施設での虐待がどうしてもあり、それは地域から孤立する状況になりうると思うので、入所施設が地域と繋がっているということは、孤立しないで済むので、この様な取り組みが進むと障害のある人も安心して住める地域になり、障害分野からみても良い事例ではないかと感じました。ただ、氷川台での取り組みはひとつのモデルではあるが、地域の特性を生かしていかに広げていくかという部分で知恵を出し合って行かなければならないと感じました。

【会 長】東久留米団地については、先ほど加藤委員が言われた通り、高台で住環境は良いが、医療との関係でアクセスが少し悪いので、ちょっと孤立している部分があるかと思っています。しかし、医療の部分をつなげていけば、そこで完結するような町、コミュニティになって行くのではないかと思います。

氷川台については、戸建てのコミュニティということで、自治会活動が盛んです。こういった前向きに取り組んでいる自治会は他にも有ると思います。やはり、広報誌などを通

じて一般に広げていくと、他の自治会でも参考になる所があるのかなと感じます。ただ、自治会館そのものは西武不動産の分譲で、その時の建設事務所を西武が寄贈したと聞いているので、自由に使える場所をどう確保するか、他の自治会や団地はどうかということところが課題。

武蔵野の里は立地が非常に良い。完全独立で、隣に大きな店も並んでいるし非常に目立つ。地域に溶け込んでいるところもある。ただし、グループホームは少し引っ込んでいて、そこは地元の人でも分かりづらい場所にあるが、福祉就労から一般就労に売り上げを上げていくということでは、地域とモデル的に頑張ってみようかなという感じがしました。

自由学園は、非常に場所も良いし素晴らしいと思いますが、ノウハウを生涯学習の場として、もっと地域に貢献してくれると良いなと感じました。地域防災計画の関係では、自由学園が避難場所の一つになっているかと思いますが、防災との関係、いざという時にはかなりの人を収容できる。学園側も地域貢献をしたいと言っているのをいわれていますので、良いチャンネルが作れば、話し合いができるのではないかと思います。

イオン、滝山団地商店街の印象としては、買物バスをうまく活用してコミュニティバスにできないかと考えました。ほとんどの自治体ではコミュニティバスが走っているのに、東久留米は無いので、できればコミュニティバスが、民間と連携できれば良いと思います。買物バスは、イオン側ではなく西武バスが走らせていて、駅とイオンとの間の2路線を1回100円で運行しているとのこと。イオンと駅を中心とした路線だけではなくて、東久留米市内の公共施設など拠点ごとに上手くバス停を作るなどして、西武鉄道・イオンとコラボができないかと感じました。イオンホールは、名前の割には狭かったのですが、あまり利用されていない。地域に貢献するという理論、建築の経緯も色々あってあの様な場所を設けたのかと思うが、平日はあまり使われていない様な感じがするので、あの場所を、イオンと市で話し合って、上手に安く使えるようにできればという感じがします。それと同時に、大型店なので、夏は涼しく、冬は温かい場所として高齢者が1日遊べる。住民の方々が、買物だけでなく、市民の方々が意見交換をする、あるいは居場所になるような、そんなことを感じました。

滝山団地については、やはり戸建ての住宅が多いが、ポツポツと空き家がある。また、高齢者だけの世帯、独り暮らしもあるのではないかな。医療は非常に整っているが、肝心の商店街はシャッター街になっている。空き店舗をどうやって活用するかということで、NPOが交流センターを設けていますが、地元商店街が、団地の自治会とで空き店舗を活用

して、居場所、安否確認、支え合いの様なもので活用ができないかと感じました。

都合で参加されなかった委員の皆さま、これまでの報告を聞いて感想・要望・提案はありますか。

【委員】滝山商店街、シャッター街はほとんどない。空いているのが昔の三越、これがネックになっている。この間の資料では商店街は全店埋まっている。商店街の事務所を作って活動しているようです。商店街は頑張っていると思う。一時期「夏まつり」を止めるという話もあったが、ずっと継続している。その時は人出が多い。

【会長】滝山は高齢化が進んでいて、人口は多いと思うのですが、その商店会の活気で、地元住民の安否確認の場になるような上手い話にはなりませんか。

【委員】そのような事例は無い。高齢化は進んでいる感じはします。

【会長】滝山団地は、医療は非常に整っていると聞いていますが、滝山の医療資源について、石橋委員のお考えはいかがですか。

【委員】市内に3つしか無い病院の一つが有るわけだし、建物が若干老朽化しているが、先生方も一生懸命頑張っている。開業の先生方も何施設かある。産婦人科も新しいクリニックが出来た。とりあえず、利用できるものはある。非常に恵まれていると思います。皆さん、だいたいかかりつけが有るのではないかな。内科も3施設、整形外科もある。

【委員】その点は東久留米団地とは違う、東久留米団地の課題。

【委員】私は勤務先で、毎年自由学園の子ども達の活動を受けいれていますが、きめ細かい教育がなされていると感じています。トイレを利用したら、帰る際に先生方がお掃除をしてくださるなどとても感心しました。食生活もとてもきめ細かくて手作りで素晴らしいが、年々、生徒が少なくなっている。親御さんも不安でしょうし、外から見るとよく分からないが、もう少し地域と交流したり、福地委員がおっしゃっていたように、毎年1人位市役所に就職するなどして、卒業生が市の中に入って考えを広めていくようなサイクルができれば良いと思います。緑がどんどん減っているのに、あの場所にあれだけ緑が残っているのは凄いことだと思う。もっと地域の人を通して交流できるようになれば良いと感じました。

正月休みにイオンへ行きましたが、駐車出来ない位、車がいっぱい人で大変多かったのですが、東久留米にいて行ける場所が出来たのは良いと思いました。東久留米では、映画一つ見るにしても大変。地方都市だと映画館やコンサートホールが近くにありますが、東久留米は、東京なのにコンサートも映画も1日がかかりでないと行けない。近くにイオン

ができて、すごく人が集まっているので、いろんな事はありましたが、良かったのではないかと思います。

私は滝山に住んでいますが、最近空き家が多くて、大きなお家なのにお年寄りが独りだけで生活している家もあり、暮らしてはいるようだがよく分からない家が多い。それが団地とは違う問題。居るのか居ないのかが分からないというのと、あまり外に出て来られない。戸建てに住んでいる方や女性の独り暮らしの方は、デイサービスも抵抗があって利用していないという事もあります。大きな家がポツポツと空き家になっており、職場の人には「東久留米は、一人が住めるような住宅が少ない」と言われる。他の地域から働きに来ている人から「独り暮らしの若者が住める場所がない」と。マンションや団地も広すぎて、家賃も高く一人では住めない。独り暮らしの若者が住める場所もアパートも無いので、もっとあっていいと思います。滝山の商店街も、もう少し遅い時間まで開いていてくれたら。仕事が終わってから行くと、19時前でラスト1枚みたいなところがあります。滝山団地というと、元々URが作った時に、一般的な家庭のひな形で作っていると思う。働いていると、もう商店街では買物が出来ないのも、もう少し若者が暮らせるような工夫があったら良いと思います。商店街の閉店が本当に早いです。

【委員】私の近くには空き家は無いです。

【委員】私は3丁目の方ですが、独居の人は多いです。

【委員】上の原は非常に活発で、東久留米団地自治会が結構しっかりしている。滝山については、団地の中ではそれぞれ自治会はありますが、6丁目の賃貸の自治会は活発にやっているようです。後の自治会については、そんなに活発に活動はしていない。戸建ての部分については、毎年役員が代わるスタイル。役員が代わるから落ち着いてちゃんとした仕事ができない。そういう課題もあるので、その辺は自治会のやり方も考えていったほうが良いのかなと感じています。

【委員】皆さんのレポートを読ませていただきました。これを地域の福祉計画に生かして欲しい。無駄に終わって欲しくないです。自分は浅間町3丁目で、自由学園の学園長とは環境審議会でも議論していますが、自由学園などそれなりに特色があるので、それを生かすのが市の計画だと思います。三次の計画にはとても期待しています。せっかく皆さんが貴重な時間を割いてヒアリングをしたので、今度の計画の素案に生きるようにして欲しいです。

【委員】色々と事情がよくわかりました。私達も集合住宅の孤立感、地域社会の古い住

宅、新しいマンションの中でも10～20年経つと独居老人や色々困っている世帯に気がついています。社会福祉協議会の方で、氷川台住宅もモデル地域に指定して、いくつかやりました。来年は、皆さんから頂いた赤い羽根共同募金のうちの特に歳末助け合いの部分で、東久留米では500万円位集まる中からの一定額を、地域のコミュニティづくりのために出しています。確かにマンションの場合には、管理組合の方も入居者も孤独死の問題、そんな所も、管理組合がお金を出すからうちを出さないのではなくて、出したら出したで良いのではないかと。ただ、マンションだけの自治組織だけではなく、その周辺の戸建て住宅の方の中に入るような組織づくりを考えなければならないと思います。八幡町の大きなマンションや駅周辺など。氷川台も防災組織づくりの問題では、介護老人のための防災訓練などしている。これからも、特に高齢者対策、乳幼児の保育の問題にも目を向けている。ぶどうの郷もよく出来ていると我々も思っています。

【会 長】 ひばりヶ丘も最後に見に行ったが、新しい戸建てやマンションができると若い世代も入ってくる。東久留米と一口に言いますが、地域の特性があるので、松永委員の言うとおり、コミュニティー一つ一つを大切にしながら住民同士の繋がりなどを計画に落とししていければと思いました。

【委 員】 武蔵野の里について。精神障害者施設の経営の課題については、都庁の会議などでもそういう指摘はされておりますし、私も今までの経験から、そのような状況であると認識しています。コーディネーター制度が馴染めるかどうかよく分かりませんが。

【会 長】 今の地域福祉を、自治会・団地・NPOの事業所など任意の事業所の集まりのところに、地域福祉のコーディネーターというものがあれば良いと感じました。本日配布した資料「地域における新たな支え合いと自治体の役割」ということで、左上に地域福祉のコーディネーターという位置づけがあり、互助と公助ということが記されています。これは、最近東京都が各区市町村に地域福祉の進め方において、それぞれの拠点施設に地域福祉のコーディネーターを置くことが望ましいとしています。私が以前関わった西東京市の20の小学校で15年以上経つが、そこに地域福祉のコーディネーターを置くことが議論されています。有資格者だけではなく、地域の世話人の様な方に関わってもらえたら良いのではないかと。特に団塊の世代の人達が、現役世代の人とリタイアした人とのパイプ役として地域デビューが出来たという話もあります。東久留米もそのような団地自治会の会長や事務局長が地域福祉のコーディネーターであると思うが、そのような方々が居場所を市民の有志が用意して取り組んでいるところがあると思います。ここの部分の情報は、東

久留米市社会福祉協議会の地域福祉活動計画に私が関わっているので、審議会の委員、社協の活動計画の策定にフィードバックして、その情報をまたこちらに持ち寄るようにします。皆さんの普段の生活の中で、高齢者だけではなく子育て世代や障害者の居場所などあれば審議会に情報を上げて頂ければ、どのようなコーディネートをするればそれぞれのコミュニティの完結する部分が出てくるのかなという感じがします。

配布資料について、事務局からは何か説明がありますか。これを念頭に置いたうえで、視察成果を計画にどう落としこんでいくかということで更に議論を進めたいと思います。

○ 「地域福祉に関するおたずね」調査報告書（案）について

【会 長】次に２点目、調査報告書に関して。これは、報告書の流れの確認ということですね。では事務局、説明をお願いします。

【事務局】「東久留米市地域福祉に関するおたずね」については、２５年度末に調査報告書としてまとめる予定で、編集作業をすすめてまいります。本日の資料は、その流れを確認いただくために用意したものです。これまで調査結果として審議会に提出した部分は本日省略してありますので、ご了承のほどお願いします。

まず表紙の裏側、目次をご覧ください。

Ⅰ 調査の概要は、目的、回収率等の概要、回収結果であります。２ページには地区区分、本日差し替えをお願いしました３ページにはブロック別回答者の年代、性別のグラフ、報告書を見る際の注意点、４ページはグラフの見方です。

Ⅱ ５ページから８ページにかけての調査結果と分析は、ブロック別の回答傾向に差が見られた設問をブロックの地図に落としたものです。この４ページ分は、今回追加したものです。

５ページ目。現在の地域での繋がりについて必要かどうかの割合。「とても必要」が３３．６％。地区別では、高い地区は第８ブロックで４５．２％、低い地区は第３ブロックで１７．５％。

６ページ目。現在の居住地区で夜間暗い所があり通行に不安があると感じる割合。「暗い所があり不安」と感じる割合は２８．７％。低い地区は第７ブロックで２１．１％、高い地区は第１ブロックで３９．１％。

７ページ目。問２３、隣近所の住民との普段からの付き合いについて大切と思う割合。「普段からの付き合いが大切」が７５．５％。高い地区は第１ブロックで９０．５％、低

い地区は第3ブロックで63.5%。

8ページ目。火災などの際における避難方向が分からず逃げ遅れる不安を感じる割合。「逃げ遅れるのではないかと不安」と感じる人は22.7%。低い地区は第7ブロック14.1%、高い地区は第3ブロック36.5%。

調査報告書の前段は、以上のような構成を考えております。このあとに、単純集計結果、クロス集計結果、そして資料編には、調査票と自由回答を付けます。

年度末に向けて編集作業をすすめてまいります。説明は以上です。

【会 長】調査報告書に関してお気づきの点等ありましたら、お願いします。

【コンサルタント】各地区のサンプル数が少ないので、必ずしも地域特性に当てはまらない可能性はありますが、ある程度の傾向は見られます。アンケート結果だけではなく、他の情報と重ねあわせると特徴がより良く分かるかと思います。

【委 員】5ページ目。回答の中では相対的に第3ブロックが低いということですが、全体的に見ると半分以下。7ページの「普段からの付き合いが大切だと思う」という答えが相対的には第3ブロックが低い、「普段からの付き合いが大切だと思う」人が半分以上を超えている。けれども、「地域の繋がりがとても必要」と考えている人は実は5ページを見ると半分以下。不思議な結果が出ているが実態はどうか。回答結果がちぐはぐのような気がします。

【コンサルタント】特徴を目立たせたので、差があるところをフォーカスしている。質問では「とても必要」と「必要」と段階を分けて聞いている。合わせるとこのような結果になる。

【事務局】「とても必要」は全体で33%だが、「どちらかという必要」というのが約4割。なので、過度に必要とは感じないが、そこそこのお付き合いは必要と考える人が多い。

【会 長】地域の範囲がどこまでかということもある。問23は隣近所、問13よりもっとミクロ。これをどうエリアとして捉えるかということもある。「向こう3軒両隣は大事だけど、小学校区ならどちらでも良い」という感じになるのか。

【委 員】5ページ。地域との繋がりがとても必要ということが前提。設問はどのような文章だったのか。「とても必要」で括って良いのか。

【コンサルタント】16ページに質問文がそのまま掲載してあります。

【会 長】もう少し丁寧な調査項目、選択肢があればよかったかと。

【委 員】「どちらかといえば」、曖昧な表現は良くない。YESかNOではっきりすれば

良い。合わせていくらになるかというのが聞きたかった。それは聞いていないか。本当にとても必要なものに対応するパラレルになっていない。

【事務局】「とても必要だ」という答えと、「必要ない」と聞いています。

【委員】そうであれば、集計する時に両方すべき。「必要でない」という項目まであるのなら。必要の程度、「とても必要」がおかしい。

【事務局】今回の概要で、4ページのトピックスを作ったのは、地域ごとに少し差が出たところを拾ったものです。調査項目自体は、他の集計結果も全て掲載します。松永委員がおっしゃる回答の傾向は、数値がはっきり出ます。ここは、ブロックで特徴的な現象が現れた部分について4ページにまとめています。全体を流して見ていただくと、設問の仕方などはもう少し細かく出てきています。

【委員】補足をするなどした方が良いのではないか。「必要ない」が33.3%、少しコメントを挟んだほうが良い。

【会長】これは速報ということで、もう少し情報が全体、自由回答も56ページあるので、速報と言ってももう少し情報を出して頂いて、丁寧な状態でないと、次の議題が計画策定になってしまうので、ちょっと唐突過ぎる。

【委員】現地に行った時に感じたのは、坂が有るのと無いとではすごく住民の困っている事に違いがあるのではないかと感じました。集計の中で、東久留米の中でも坂が有る所と無い所とか、単なるブロック分けではなく、特徴のある集計をしてみると面白いのではないかと思った。

8ページの「避難先が分からない」という部分では、第7ブロックが少ないのは霊園が有るからという特徴的な、避難場所がみんなわかっているという感じがあって、第3ブロックが無いのは、「どこに行ったら良いかわからない」と新しい住民が住んでいるからではと思うので、避難場所なども具体的に書いてもらえると、表とリンクして状況がわかるのではないかと思います。

【会長】東久留米の市街地地図に情報を落としこんでMAPを作って、面として見るのが大事。事務局は大変ですが、そのような情報もここに加えて立体的・可視化できるような情報にして欲しいと思います。次回までにそのような情報を作ってもらって、各委員に配布して頂ければ、次の委員会時に話も進むので、少し工夫をお願いしたい。前向きな検討をお願いします。

【事務局】出来そうもない。

【会 長】検討してください。

【委 員】4 ページの下グラフ。「お手伝いなどをしない理由」の複数回答で、「身近にいなかった、必要とされたことはない」の回答がダントツに高い。これは、いわゆる絆の部分希薄なのかなという印象を持った。地域福祉計画の重要事項として、お互いが必要とされる関係をつくる仕掛けが最優先課題ではないかという気がしました。

【会 長】現時点では単純集計なので、年齢的なクロスをしていないので、それをすればもう少し詳細がわかってくる。単純集計とは別にクロス集計をかけたデータが見たい。クロス集計をかけた結果でまだ不明な点があれば更にクロス集計をかけて、そのような情報の出し方、資料の出し方を工夫してもらえば、もっと見えてくるのではないかな。

最終報告書にはそのようなクロスをかけて、もっと実体的に見られるような表を出していただきたい。骨子を作った後で調査結果の報告が後で来るのはおかしい。事務局は大変ですが工夫して頂きたいです。

○ 地域福祉計画（第3次計画骨子案）について

【会 長】会議次第3点目の次期計画の骨子案についてであります。これまでの審議会、庁内検討委員会等での議論を踏まえながら、事務局で計画骨子案をまとめてもらいました。地域福祉に関する市民アンケートの調査結果、現地視察・ヒアリング結果なども念頭に置いていただきながら、議論をすすめていければと思います。

事務局から説明を受けたいと思います。

【事務局】骨子案に沿って説明。この骨子案も含めて、去る1月9日に庁内検討委員会を開催して議論いたしました。本日机上配布しました検討委員会会議録は後ほどご参照いただきたいと思います。

【会 長】まだ骨子案の段階です。計画の柱立てに關しての過不足、計画の構成はどうか、まだまだ項目等の出し入れは十分に可能であると思います。どうぞ忌憚なくご発言願います。

【委 員】1 ページ目、一番下の「視点の広がり」について。「従来の個別福祉課題対応から、地域での生活課題解決へと視点を広げる」とありますが、今の説明から考えると、市民参画を進めながら地域の課題を解決していくということかと思いますが。そこで市民が集まって課題を解決するためには、政策の形成プロセスに何らかの形で関わるという視点があった方がよいのではないかと思います。そうしないと、PDCAサイクルも回っていか

ない。地域の課題解決のために、地域の共助・互助で解決できる課題もあるでしょうが、解決できないものもある。そういったものを何らかの具体的施策に反映できるような政策を市民と共に作り出し、地域課題解決のために予算を活用できないでしょうか。もう1点、地域の課題を解決するために欠かせないのはネットワーク形成が必要。ネットワーク形成をする上でのプロセス・視点を明確にした方が良いと思います。

【会 長】今の点について、事務局からありますか。

【事務局】プロットとして落とし込むことになるであろうと考えています。

【会 長】現計画のチェック・評価をして、そこで継続すべき施策、廃止すべき施策、したりない所への新規の施策、その部分をやっていかないと、その都度計画がぶつ切りになってしまう。現計画の評価もやった上での議論が必要だと思います。

ネットワークの形成ということでは、公助と自助の役割分担。地域福祉コーディネーターの話が出ている。これから10年の優先順位。人口減少、空き家も出てくる。10年間のスパンの中で、どの事業を最優先にするかという部分もあるかと思う。そこでターゲットとなる事業が出てくるのではないかと思います。

【委 員】総論の組み立ては、国の政策・東京都の政策、良いやり方だと思います。各論については、総論で言われている事が出てこない。総論ではPDCAと言いながら、各論ではどれがPDCAなのか分からない。例として、「新たな支え合いを目指して」がPなのか、ではそのために何をするのか、どうしたらチェックするのか、アクションはどうするのか、PDCAのまわりようが無い。これはもう1度考え直したほうが良いのではないかと。各論で提案したい物があるのは、自分は正直難しくて分からない。市民が読んで分かりやすい文章にすることが、市の行政の計画だと思う。専門的な言葉が多いと嫌になる。

各論は4つ。私の考える第1章は、以前頂いたマップを活用して、町別の福祉計画を自治会の人に中心になってもらって考えてもらう。地域別の福祉計画。

第2章は、20～30代の人達の呼び戻しをなんとかしなければいけない。年寄りだけの世界になってしまう。10年前に「多摩はどうあるべきか」という提言に参加している。その時に、20～30代の若い世代が生活しやすいように家賃を安くする、子どもを産んで育てることが活力に出てくるシーンになる。このまま行ったらデッドシティになってしまう。20～30代に向けての福祉計画を中心に、年代別・世代別の福祉計画。

第3章は、社会福祉協議会・医師会・老人会等それぞれの施設別の福祉計画。

第4章は、町を活性化する福祉計画、バリアフリー、インフラ整備も含めて。東久留米

で言えば古い家を壊してなんとかするとか、有効活用を考える、町が活性化することを考える福祉計画。

この４章を各論にしてはどうでしょうか。

【会 長】事務局もそれを念頭に置いて、先ほどの意見も踏まえて修正して次回議論することになるかと思います。もう一度検証をお願いします。

P D C Aサイクルについては、５章の推進対策整備のところ、新しい計画・プランをどのように実行してチェックしていくのかを入れておかないと、P D C Aサイクルにはならず、計画の作りっぱなしになってしまい、次の計画につながっていかない。そういう意味では、現在の計画をチェックして、課題があれば次の１０年に継ぎ足して継続していく。

【委 員】第二次計画で積み残したものを第三次に継続する。不十分だと思うものを入れていくというチェック、点検をしなくてはいけない。

【会 長】事務局には、膨大な作業になるかと思いますが、現計画の評価の結果をやらないと次のステップにはいけないので、工夫して頂ければと思います。

【事務局】第１回審議会時に、事業ごとに出したものを書類でお配りしていますが、これが三次計画にどう移行していくかは、各論の中に個別に事業等立てていく中で、前回計画との整理の仕方、それを踏まえて整備はこれからやります。

【委 員】新たな視点の取り組みということで、生活困窮者のケアと地域包括ケアと災害など入っているが、これは総論の部分に視点として入れていくのでしょうか。それともこれを盛り込んだ各論にするつもりでしょうか。

【事務局】困窮者対策については、国のガイドラインがまだ出ていません。ただし、総論の中で、国の動きの中のひとつの要素では有ると思います。そのための、行政がやらなくてはならない必須事業、任意選択の中にはありますが、それに対する対応は法律対応になる。国のガイドラインを見ながら実施していきます。また、法律を受けて、これから色々と対応していかなければならないので、色々な情報を収集しながら、どこまで今回の計画に書けるか十分に色々な資料を提示したいと思います。

地域包括・災害の方については、東京都の社会福祉審議会のまとまった形が出れば、地域福祉に移行するのか介護福祉に移行するのかの振り分けがあるので、もう少しお時間を頂きたいところです。

【委 員】地域包括ケアを各論で盛り込むとなると、在宅医療の部分などが関わってくると思う。認知症の対策など、色々なものが入り込んでくるかと思う。とても大変なものに

なるのではないかと心配していることがひとつ。災害対策を各論に盛り込む。要援護者のことは一生懸命言われているが、いわゆる地域防災計画の都の関連性はどうするかという問題があり、それをどこまで、地域福祉の中に災害対策と一緒に盛り込んで行くような形になるのか、全く違う形にされるのか。その辺のところは今後どのように進めていく予定ですか。

【事務局】本日時点での方向性はお答え出来ませんが、いずれにしても、地域包括ケアの関係と災害対策については、色々な関係が整備できていない。但し、国の地域福祉計画に対する色々な指針を見ると、この計画の中に盛り込んで欲しいという話になっている。東京都の動きも踏まえなければいけないということにもなりますので、もう少しお時間を頂きたいと思います。

【会 長】個別計画については、介護の関係なら介護保険事業計画、防災は地域防災計画、あるいは都市計画など様々な個別計画があるので、一つの計画に全てを押し込めるわけにはいかない。そのための個別計画だが、整合性をどのようにとるかというのは、国や東京都、東久留米独自のどの部分をどう助けるか、というテクニックの部分なので、もう少し時間が必要。

骨子の段階なので、ご意見があれば頂きたい。市もコンサルと連携して、今日出た色々な要望など、各委員さんに郵送などをして情報開示をして次の審議会に向けて、更に詰めていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

（３）その他

【会 長】その他、各委員から何かご発言はありますか。なければ、次回審議会の日程を調整したいと思います。

【委 員】「将来、東久留米をどうしたいか」という意見を盛り込んで頂きたい。若い人達が住みたくなるような市にならなくてはいけないので、その点についてきちんと福祉計画で先を見据えたものが必要。総論の頭から「計画の改定にあたって」の辺りに謳っていただけのようなものにしていただきたい。

【会 長】国も社会保障といえば、年金・介護・医療と特化していて子育ても忘れていないのではないだろうか。全世代型の社会保障と言われているので、地域福祉計画といえばまさにその通りで、子育て支援、まちづくりそのもの。東久留米の町の向こう１０～３０年後を見据えた形にしていきたい。

【事務局】いろいろなお話があつて、検討していかななくてはならないが、今回の地域福祉計画の最大の骨子をずらすわけにはいかない。ここは皆さまにご理解を頂きたい部分で、それぞれの計画、個別計画に対していかにそこへ市民生活の課題の早期発見や住民の支えによる支援の広がり、制度に縛られない取り組みなど書いてあるが、ここで一番重要なのは「支え合いのシステムの構築」を今回の地域福祉計画の骨子に入れている。前回の見直しと2次と3次の最大の違いは、「計画の為の計画をつくる」のではなく、実務として、「どうやれば市民全てを支えていけるか」という視点を重要視していかないといけない。前回のフィードバックも勿論大切なのですが、そのシステムを作っていくのが今回の計画の骨子だということを事務局としては主題においているのでご理解を頂いて肉付けをしていきたいと考えています。本日頂いた意見は骨子として生かしていかななくてはならないが、「支え合いのシステムづくり」が今まであまり進んでいなかった分野で国からも方針がでているので、その辺の視点が重要なポイントになっていることについてご理解頂きたい。肉付けのところは、今日頂いた意見を元にしていきたいと思っています。

【委員】部長の考えている「支え合いのシステム」の中身は何か。

【事務局】私が担当部長として考えている事は、今回は東久留米団地と氷川台、実際にそれぞれの地域がそれぞれのやり方でお互いの繋がりを作って行く地域を見ていただきました。他の地域でそのまま当てはまるかというのは疑問だが、あのようなシステムを作っていかななくてはならないというところが、今回の重要なテーマであると考えています。行政ができる限界について国もしっかり示すようになりまして、我々市の立場としても限界があります。我々の方が置いて行かれてしまっていて、氷川台などが先に進んでしまっているみたいなイメージを受けています。ですので、あのような形のものを作っていかないとならないのではないかと感じています。

【会長】全員ご理解頂いていると思いますが、再確認して頂いて、高齢者の見守り、障害者の助け合い、子育て支援など皆で支えあえる町にする。大事なところです。

骨子の段階であるので、色々な情報を頂きながら意見を集約していきます。もう一つ大事なことは、一般市民向けにこのような活動をしていることを発信して考えてもらうことを、事務局で検討して頂けますか。議論していることをオープンにすることが大事だと思います。

【委員】自由学園は、市民と共に市政への貢献を考えていると思います。自由学園の学生さんの視点から、地域福祉計画の文書表現を小学生・中学生・大学生の言葉に置き換え

て書き直す位の勢いでやってみても良いのではないのでしょうか。つまり、通常の地域福祉計画書とは別に、小学生・中学生・大学生の言葉に置き換えて表現した計画書を別途作成してはいかがでしょうか。子どもから高齢者までが参加理解できる計画書の作成を自由学園の皆さんと取り組むことによって、市民参画による地域福祉計画にちかづくと思います。

【委員】「支え合う」というものを中心におくというならば、簡単に「支えあうものをどのように構築するか」を理念としてはっきり言えば良い。いろんな言葉が出てくるからぶれてくるので、簡単に分かりやすくした方が良いのではないですか。

【会長】会長・副会長・事務局・コンサルを交えて修正し、分かりやすいものを作りたい。

次回の日程調整について。

【事務局】平成26年2月26日（水）午後7時～でいかがでしょうか。

→ 上記日程で決定。

（４）閉 会

【会長】以上をもって第3回社会福祉審議会を閉会といたします。ご協力ありがとうございました。